

編集部＝竹中光子、中務佐代子、上溝敏子、飯田憲三 knziid@gmail.com 090-6665-3750

トピックス 9月より部会活動順次再開 14期生臨時講座第1回は9/23予定

今号は4頁

○9月の部会活動 開催見込み 部会活動は各部会の判断により順次再開としています。
ただコロナ感染症の現状より、目下は **開催決定＝1部会**（里山保全）、**休会決定＝4部会**（植物、写真、ウォーキング、吟行=休会中はメール俳句を実施）、**検討中・様子見＝6部会**となっています。

○ML月一回発行へ 活動の一部再開に伴い MLは9月より月一回（第2水曜日）発行の予定です。

十人十色ひろば 今回は14期生 池口さんからの便りです



スイスアルプス

「人生・何事も経験だよな」と新型コロナが広がり始めた頃はさほど深刻に思っていなかったのです。

ところがステイホームで半年を過ごした今も、収まるどころか先は不安の連鎖。

カレッジ2年目を、ぎりぎりの体力で踏み出そうと決めた身にとって、ウイルスのダメージは深刻でした。

そんな折、先輩の方々が配信して下さる自然満載のMLは、憂さをしばし忘れさせてくれます。



今よりもっと若かった頃は、山のお花畑に惹かれて夏山計画に浮かれたものでした。

ML11号のウスユキソウを見て、礼文島は知らないのですが、**スイスアルプスで出会ったエーデルワイス**を思い出しました。せめて来年は、バスツアーで伊吹山のシモツケソウに逢いたいなと思っています。有難うございました。

編集部 カレッジ講座の2年目は伊吹山始め芦生の森、西播磨天文台など少し遠くの**楽しい研修先**が沢山あります。コロナ乗り越え頑張りましょう！

ワンダーワルド 「いのちの営み探検部会」の活動／選 今回は **ブルービー**について 泉谷さんより

幸せを呼ぶ青い蜂（ブルービー）をご存知でしょうか。 **見つけることができると幸せになれる？**

正式名称は、**ルリモンハナバチ**（ミツバチ科）と言い、大きさはミツバチと同じくらい。地域によっては絶滅危惧種にも指定されている珍しい蜂で、黒地に縞々の青毛が生える美しい蜂です。

花粉や蜜を集めるのではなく、他のハナバチの巣に卵を産み、幼虫はその巣に蓄えられた花粉を食べて育つ（**労働寄生**）。

生存には寄生されるハチが必要なわけで、豊かな生態系が保全されていないとこのハチも生きていけない。（右写真 2枚）

下は、ドロバチ類の幼虫に寄生する**オオセイボウ**と、イラガ類のまゆに寄生する**イラガセイボウ**。（どちらもセイボウ科）



オミナエシに来たルリモンハナバチ



オオセイボウ



羽化直後のイラガセイボウ
(イラガのまゆから顔を出していた)



さざれ石に興味を持ち「どうしてできたのかなー」と話をしながら石ころ好きの皆さんと発足して2年目となりました。

「石についてあまりよく知らない」ではまずいから、まずは石の名前から覚えていこうと長居の博物館の先生に、石川と大和川の石ころについて説明を受けたり、石川の石ころ採集、石の加工として勾玉づくりなどを体験。その間、雨でダメ、良い天気でも川の増水でダメなど、自然現象に左右されることが多い中、楽しく石ころ拾いをしています。

石ころはきれいな石、奇妙な形で大きな山を連想できるような石、砂粒は拡大鏡で見ると結晶がきらきらと美しく、その都度新しい体験が出来ます。次には川の中の鉱物探しなどにも挑戦したいと思っています。



野の花このごろ

今回は **葉をつけない花の仲間**について **MKさん**より

夏も終わりに近づくと、**ヒガンバナ科ヒガンバナ属**の花が咲きはじめます。キツネノカミソリやナツズイセンはヒガンバナと同様に花が咲く時に葉を付けていません。また7～8月に開花する**ウバユリ**（姥百合）は老婆の歯（葉）が欠けていることになぞらえてその名が付いたと言われるように、花が咲くころになると葉が枯れ始めます。ウバユリはユリ科ですが、その葉は平行脈の細い葉ではなく、幅広で網状脈です。さらに変わっているのが**1回繁殖型多年草**ということ。種子から6～8年で花を咲かせますが、一回の開花・結実後は地中の鱗茎ともその貯蔵物質を消耗し尽くし全て枯れてしまいます。



花を咲かせた時点で葉はその役目を終えたということでしょうか。

一つの花から500個程の種子をつくり、これも林床植物には極めて珍しい**風散布型**で種を飛ばします。一方で次世代の**娘鱗茎（ラメット）**をつくり栄養繁殖もします。

キツネノカミソリは林縁や明るい落葉広葉樹林にて早春から葉を展開し、夏草が茂るころには葉が枯れます。その後に花茎を形成し、赤い花を咲かせます。

ナツズイセン（夏水仙）は鱗茎ひとつに対して1本の花茎を伸ばし、ピンクの花を咲かせます。こちらは三倍体ですので種子はできません。人里近くの山野や道端などの木陰に生育します。和名には葉がないことからハダカユリ（裸百合）とかカラスノカミソリの名もあります。これらヒガンバナ属は多年草で葉の時に十分な栄養を球根に溜めて葉を枯らし、夏が終わりかかると茎を周りの夏草の丈より長く伸ばして花を咲かせ、これを毎年繰り返します。そして気を付けたいことは、これらヒガンバナ属は全て**リコリンを含む有毒植物**ですので、花も葉もよく似た食べられるカンゾウ等のワスレグサ属と間違えないようにしましょう。



今、里山は雨が欲しい！ 8月も後半となりましたが8月に入って雨が降っていません。暑い時期に頼りの夕立ちも全くありません。水道がない里山は雨水が頼りなのです。

畑の中には120ℓのポリバケツや風呂桶を置いています。雨が続けば満水になりますが、今は写真の通りです。



少々の雨では畑の桶に水は溜まりません。そこで、屋根の雨水もバケツやタンクで集める工夫をしています。しかし雨が降らなければ役に立ちません。あ〜、雨が欲しい。



今の頼りは、ミカン山の持ち主の素晴らしい工夫「小屋の地下水槽」です。この地下水槽はどこからか水が入るように作られています。かなり大きいようで、今も水が溜まっています。この水を汲み野菜に遣るのです。しかし水汲み・水運びは、かなりしんどい！



このMonthly Letterが発行される日までは、雨が降ることを願っています。

野鳥このごろ

今回は小さくてかわいい鳥たち。

MKさんのレポートです



かわいい鳥と言えば、メジロを挙げる人が多いと思います。鳥好きの人ならばエナガやクイタダキを推すでしょう。これらの小鳥は小柄で眼に何れもチャームポイントがあります。メジロはご存知の通り目が白いです。白いのは目の周りにある羽根です。またエナガやクイタダキのつぶらな瞳はたまらないほどキュートですね。



日本で一番小さく軽い鳥はクイタダキで、標準体重はたったの5 gというのですから驚きです。10円硬貨が4.5 g、100円硬貨は4.8 gですから、その超軽さをご想像下さい。エナガは7.5 gと五百円硬貨(7 g)よりほんの少し重たい位で、メジロは11 gです。クイタダキやメジロは漂鳥ですので、夏の間は山地に移動して平地で見かけることはありません。その他に軽量級の可愛い鳥としては、前回に渡り鳥のムシクイを紹介しましたが、今回はメジロ(11 g)より軽いその他の小鳥達を紹介しましょう。

漂鳥としては他に囀りに特徴のあるミソサザイ(9 g)やセッカ(10 g)がいます。また季節移動をしない留鳥の中には、エナガや山地に留まるヒガラ(8 g)、コガラ(10 g)がいます。



ちなみにスズメの体重は30 g、カラスは700~800 g位になります。

これらの小鳥達は、軽量ゆえに消費エネルギーは少なくなくて済みますが、外気温に対する体温保持や猛禽類の被害を受けやすいので、群れをつくって行動することが多いようです。



8月 大雪山 エゾナキウサギ

自然カレッジ同期生有志の北海道山旅で、初めて大雪山に登りました。

「山旅」と格好をつけても駆け出しの初心者集団で、早朝から山に登り、夕方には麓の温泉にザンブリ浸かる気軽で楽しい旅、**雌阿寒岳**や**暑寒別湿原**なども巡りました。

大雪山は北海道中央部のいくつかの山々からなる大きな山塊で、最高峰の**旭岳**や東端の**黒岳**には麓の温泉街からロープウェイが引かれ、初心者でも楽々頂上に立てます。

また、黒岳⇄旭岳間は一日で行ける人気の縦走路となっています。

私たちは層雲峡温泉からロープウェイ・リフトを乗り継いで**黒岳**7合目へ。そこから僅か450mの標高差を這い上がって「**大雪山に登ったぞーっ**」と万歳三唱する気楽さでした。

エゾナキウサギ



それでも大雪山は大雪山。雄大な眺め、多数の高山植物、ナキウサギまで堪能し、大満足の山登りでした。

エゾナキウサギは「運が良ければ会える」程度の珍しさと言いますが、平素の行いの良い私たちは、黒岳直下の自炊山小屋「黒岳石室」近くの岩場で「キチッ、キチッ」と鳴きながら見え隠れする可愛い姿に難なく出会えました。

そして、この楽しさが後を引きました。すぐに「**大雪山にまた行きたい！**」となってしまったのです。

しばらく経って、今度は元同僚と**黒岳→旭岳の縦走路**を辿ることとしました。

初日は昼頃から黒岳に取り付き「**黒岳石室**」に泊まります。

私達がレトルトカレーでの夕食中、隣では「松尾ジンギスカン」を焼きビールで乾杯しているではありませんか。

「今度は絶対！ジンギスカンやなあ・・・」と私たちは顔を見合わせ、唾をのみ込みます。

夜、仲間に起こされて外に出ると空一面の星・星・星。北海道の「天の川」は大きくて、とてつもない大河だと知ります。



大雪山の天の川は大きい！



縦走路（旭岳⇄黒岳）

写真の通り縦走路はなだらかで、広大な山塊や徘徊するヒグマの遠望、高山植物の群落など見所満載です。多くの外国からの登山者たちとカタコト英会話であれこれ話すのもとても楽しい休憩でした。

旭岳では「**大雪山、縦走したぞーっ**」と大きな気持ち、しかし小さな声で叫びました。

前回同行したカレッジの仲間の皆様へ告げたい。

「**縦走すると黒岳だけより何倍も素敵だよ！**」（けん）

編集部

エゾナキウサギ 氷河期からの生き残り動物で、体長は10～20cmのウサギ（草食）。

生態は不明な点も多く、準絶滅危惧種に指定されている。女性ばかりで構成される「**ナキウサギふぁんくらぶ**」があり、25年間にわたり保護活動に取り組んでおられる。

黒岳石室 大雪山・黒岳頂上から20分程度程の距離にある自炊山小屋。夏期間中は管理人が常駐、売店（食料、飲料、燃料）運営やシュラフ貸し出しなどの他、諸情報も聞くことができる。

テント場や清潔なバイオトイレもあり、何よりリフト駅に近いので、初めて山小屋orテント泊を経験するには最適。（今年はコロナで閉鎖中）



黒岳石室